

大府市

おいわけふじいじんじゃさいれい
追分藤井神社祭礼
【秋の例大祭】

祭礼日 10月第2日曜日

祭礼場所 藤井神社

歴史

追分町の藤井神社で行われる山車まつりです。山車は昭和57年（1982）に新造されました。

内容・見どころ

山車は1輛あり、山車の曳き廻しや飾り馬の練り歩き、餅投げなどが行われます。



知多市

おかだはるまつり
岡田春まつり
【岡田山車まつり】

祭礼日 4月16日に最も近い日曜日

祭礼場所 神明社・白山社等

歴史

岡田地区の里組・中組・奥組がそれぞれ山車を曳き廻します。祭礼で山車を飾り始めたのは安永4年(1775)で、翌年には3組の山車がそろったようです。平成3年(1991)に、山車3輛が市の有形文化財に指定されました。

内容・見どころ

祭礼の前日は宵宮祭で提灯行列を行い、当日は例祭（大祭）で、山車の曳き廻しやお囃子などが行われます。また、山車3輛にはそれぞれ木偶（からくり人形）が乗せられ、各組が様々な演目を上演します。そのほか豪快に山車の方向転換をする「捻回し」も見どころです。



八社神社祭礼

【八社神社の春まつり】



祭礼日

4月第2日曜日

祭礼場所

八社神社

山車は、文化年間に半田の亀崎西組で建造され、半田の板山大湯組を経て、昭和2年（1927）に購入したものです。それ以来、昭和33年まで街中巡行が行われていました。その後、青年会解散により山車の出品が中止されましたが、平成10年（1998）から八社神社境内でのみ山車を曳いての春祭りが復活し、山車を徐々に整備した現在では、街中巡行も行われています。平成20年に、山車が市の有形文化財に指定されました。

山車の曳き廻しやお囃子、餅投げなどが行われます。八社神社前の急な坂での、山車の坂下り・坂上りが見どころとなっています。山車は1輛あり、全体がオウム貝や夜光貝で装飾され、全国的にも珍しい総螺鈿づくりとなっています。



横松神明社例祭



祭礼日

4月第4土曜日・日曜日

祭礼場所

神明社

その年の豊作を祈る春祭りです。山車の曳き廻しは、昭和34年（1959）の伊勢湾台風により被害を受けて中断されていましたが、地域の思いにより平成4年（1992）に復興しました。献馬から山車に変わったのは、明治元年（1868）から明治4年までの間であったと推測されます。平成4年に、山車が町の有形民俗文化財に指定されました。

山車は1輛あり、からくり人形が搭載され、山車の曳き廻しやお囃子、三番叟の奉納、餅まきなどが行われます。祭礼前夜の宵祭りには、108個の提灯に火が灯り曳き廻される姿は幻想的です。祭礼日には、緑豊かな田園風景の中を優雅に山車が曳き廻され、終盤の山車の大回転は迫力があります。最後には神明社でのお囃子、三番叟の奉納が行われ、中でもお囃子の打ち込みは見応えがあります。



阿久比町

おおよまみじんじゃれたいさい

大山祇神社例大祭
【萩地区祭礼】

歴史

その年の豊作を祈る春祭りです。本祭礼が行われる萩地区は狭い道と坂が多く、山車は狭い道幅に合わせて少し小振りに造られています。現在の山車は明治44年（1911）に建造されたものですが、持ち送りは旧車のものが使われており、天保15年（1844）と記されています。平成2年（1990）に、山車が町の有形民俗文化財に指定されました。

祭礼日

4月第2土曜日・日曜日

祭礼場所

大山祇神社

内容・見どころ

山車は1輛あり、山車の曳き廻しやお囃子奉納、餅まきなどが行われます。大山祇神社は丘の中腹にあり、神社境内から下る坂道は、10m足らずの距離に対し3mもの落差があり、その先は2mほどの崖になっています。「知多半島一、勇壮」と自負する「萩の坂下ろし」は、その坂道を下ると同時に、崖の手前を左に直角に梶を切り、その後今度は逆に右にカーブするまで一気に駆け降りるもので、曳き廻しの最大の見せ場です。



阿久比町

あつたしゅれたいさい

熱田社例大祭



歴史

その年の豊作を祈る春祭りで、江戸時代から行われていると言われています。宮津北組山車、宮津南社山車の2輛が曳き廻されます。宮津南社山車に関する文書である「南社永代帳」から、宝暦元年（1751）以前より南社山車があったことがわかります。平成2年（1990）に、2輛の山車が町の有形民俗文化財に指定されました。

祭礼日

4月第3土曜日・日曜日

祭礼場所

宮津熱田社

内容・見どころ

山車2輛にはからくり人形が搭載されており、山車の曳き廻しやからくり人形の奉納、餅投げ・菓子投げなどが行われます。宮津熱田社で行われる、2輛が並んで交互に前後に山車を動かす「せり」は大変迫力があります。



阿久比町

だいがねはちまんしゃれたいさい

大古根八幡社例大祭
【大古根祭礼】

祭礼日

4月第3土曜日・日曜日

祭礼場所

八幡社

歴史

その年の豊作を祈る春祭りです。昭和34年（1959）の伊勢湾台風や県道の拡幅などで山車の曳き廻しが途絶えていましたが、県道拡幅完了、山車修復・保存会設立などにより山車曳き廻しの機運が醸成され、祭礼に伴う山車の曳き廻しが再開されました。現在の山車の建造時期は不明ですが、彫刻から江戸時代の弘化・嘉永の頃と推定されています。平成2年（1990）に、山車が町の有形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

山車は1輛あり、からくり人形が搭載され、山車の曳き廻しやお囃子、三番叟の奉納、打ち上げ花火などが行われます。夕方になると山車に付けられた提灯に火が灯され、幻想的な光景とお囃子の音色が伝統文化を感じさせてくれます。



阿久比町

むくおかはちまんじんじゃれたいさい

椋岡八幡神社例大祭



祭礼日

4月第4土曜日・日曜日

祭礼場所

八幡神社

歴史

山車は平成2年（1990）の建造です。八幡神社の老朽化と隣接する都市計画道路の拡幅に伴い、社殿やその他の施設を移転することになり、その御遷宮を記念して、地元の大工が山車を建造しました。

内容・見どころ

現在の山車が建造されるまでは、神輿に車輪を付けた山車を曳き廻していました（写真・右側の山車）。宵宮には、神子舞と子供囃子の披露があります。祭礼日には、字中を午前と午後に分けて練り歩き神子舞、お囃子の祝い込みが行われます。お昼には、八幡神社にて神子舞が披露されます。



阿久比町

やぐちやひんじゃれいたいさい

矢口箭比神社例大祭



歴史

矢口の箭比神社は延喜12年（912）に開いたと言われるとても歴史のある神社です。山車は少し小さ目の子供山車です。昭和58年（1983）の建造ですが、製作全般にわたって区民の手作りで仕上げたものです。

祭礼日

4月第1日曜日

祭礼場所

箭比神社

内容・見どころ

山車は子供山車が1輛あり、祭の当日は早朝から式典が行われます。子供山車のお祓いや子供神楽、お囃子が奉納されます。式典後、子供山車が曳き廻され、狭い道路も練り歩き字内を練り歩いた子供山車は神社に戻り、神楽殿では、子供囃子が披露されます。その後、餅まきを行います。



南知多町

ひがしばたくさいれい

東端区祭礼

【内海の春まつり】



歴史

「内海の春まつり」では、五穀豊穡、村中安全などを願い、各地区で山車が巡行します。東端区祭礼の由来などは詳らかではありませんが、神社の宝物庫に残る神輿の鈴箱には安永の年号と廻船主の名前が記されており、200年以上前から行われていたことが推定されます。平成30年（2018）に、からくり人形が町の有形民俗文化財に指定されました。

祭礼日

4月第1日曜日

祭礼場所

高宮神社・熊野社

内容・見どころ

山車は1輛あり、山車の曳き廻しやからくり人形の上演、お囃子などが行われます。神官と神子の姿をした2体のからくり人形が、煮立てた釜の中の湯を櫛などでまき散らして周囲を祓い清める湯取神事を演じます。また、神輿は激しく揺らされるため「暴れ神輿」とも言われ、高宮神社と熊野社の百数十段の階段を登っていきます。



吹越区祭礼
【内海の春まつり】

祭礼日 4月第1日曜日

祭礼場所 秋葉神社

歴史

「内海の春まつり」では、五穀豊穡、村中安全などを願い、各地区で山車が巡行します。吹越区祭礼の由来などは詳らかではありませんが、秋葉神社が近世末期の創建と伝えられていることから、これ以降に開始されたものと思われます。昭和34年（1959）の伊勢湾台風の被害により途絶えましたが、昭和50年代に現在の山車を他地区から譲り受けて復活しました。昭和59年に、からくり人形が町の有形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

山車は1輛あり、山車の曳き廻しやからくり人形の奉納、お囃子などが行われます。からくり人形は、小唐子が大唐子の肩に飛び乗り、逆立ちをする演技が見せ場です。

岡部区祭礼
【内海の春まつり】

祭礼日 4月第1日曜日

祭礼場所 神明社

歴史

「内海の春まつり」では、五穀豊穡、村中安全などを願い、各地区で山車が巡行します。岡部区祭礼の由来などは詳らかではありませんが、現在の山車製作に係る嘉永元年（1848）頃の古文書が残っており、この頃には行われていたことがわかります。平成22年（2010）に、山車とからくり人形が町の有形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

山車の曳き廻しやからくり人形の奉納、お囃子などが行われます。山車は1輛で、立川流の彫刻師である中野甚右衛門重富が製作に携わっており、彫刻も見どころです。からくり人形は、小唐子と蓮台を回す大唐子の2体で、梅の木の上で倒立し太鼓を打つ演技が見せ場です。



南知多町

さんごうまつり

三郷祭り

【内海の春まつり】



歴史

「内海の春まつり」では、五穀豊穡、村中安全などを願い、各地区で山車が巡行します。本祭礼は、江戸時代末期の「尾張名所図会」に記載があり、元は旧暦8月17日に近隣の西端区も加わり行われていましたが、昭和中頃に4月に実施することになった際、西端区を除く中之郷区・北脇区・馬場区で祭礼を行うようになりました。平成30年（2018）に、山車が町の有形民俗文化財に指定されました。

祭礼日

4月第1日曜日

祭礼場所

入見神社

内容・見どころ

山車の曳き廻しや各区による芸能の奉納、お囃子などが行われます。芸能は、中之郷区が大名行列の奴と馬杓、北脇区が棒の手、馬場区が棒の手と蛇踊りです。山車は1輛あり「蛇車」と呼ばれ、蛇踊りの際に、蛇笛に合わせて山車の上に乗った龍のからくりが舞を舞います。山車は、立川流の彫刻師である中野甚右衛門重富が製作に携わり、地元大工の手により安政6年（1859）に建造されました。



南知多町

にしむらくさいれい

西村区祭礼



歴史

西村区の村社である八幡社の秋の祭礼です。起源などは詳らかではありませんが、五穀豊穡祈願の祭礼で、現在、山車の曳き廻しは3年程度に1回となっています。山車は嘉永7年（1854）頃に建造されたものと推定され、現在の岡崎市矢作町で曳き廻されていましたが、大正4年（1915）に西村区が譲り受けました。山車の彫刻は名古屋の彫物師である瀬川治助重光によって製作され、平成18年（2006）に町の有形文化財に指定されました。

祭礼日

10月下旬頃の日曜日
(山車の巡行は3年程度に1回)

祭礼場所

八幡社

内容・見どころ

山車の曳き廻し（3年程度に1回）や神楽舞の奉納、お囃子、餅投げなどが行われます。山車は1輛あり、南知多町で一番と言われる彫刻が施されています。また、山車の前方の梶棒に板を載せて作った舞台上で、神楽舞が披露されます。



おおいのなつまつり

大井の夏祭り



祭礼日

7月第2土曜日

祭礼場所

津島神社・豊受神社

内容・見どころ

豊受神社の神様が1年に1度、津島神社の神様の魂を鎮め、慰める祭です。津島神社はその昔、尾張津島神社の天王祭で流され、大井の浜に流れ着いた「オミヨシサン」が祀られたことが始まりです。「オミヨシサン」とは、葦で作られた牛頭天王の依代、神様の分身のことです。豊受神社の神様が神事後、神輿で津島神社へお渡りになる際、山車が神様を警固します。平成30年（2018）に、山車が町の有形民俗文化財に指定されました。

山車は1輛あり、山車の曳き廻しやお囃子などが行われます。夜は提灯車が出て、津島神社へお渡りになっている神様が安全に帰って来られるよう、提灯の灯りを点けて豊受神社まで警固します。



はずじんじゃのだいみょうぎょうれつ

羽豆神社の大名行列



祭礼日

10月第2土曜日・日曜日

祭礼場所

羽豆神社

内容・見どころ

大漁祈願、無病息災を願って行われる羽豆神社の神幸祭です。神様がお渡りになる道中を、大名行列と山車が警固したことから、「羽豆神社の大名行列」という呼び名が付いたと言われています。祭の起源は不明ですが、神輿には天文20年（1551）に修理したことが記されています。江戸時代中期の祭礼絵巻物には、警固する大名行列は描かれていますが山車は描かれておらず、山車の曳き廻しはこれ以降のことと考えられています。

山車は5輛あり、山車の曳き廻しや巫女舞、大名行列、お囃子などが行われます。土曜日の夜、5つの区が順番で、いさみ音頭を唱えながら、御旅所前の広場に集まってきます。提灯を先頭に、踊り浴衣に身を包んだ男衆は、神様にいさみと踊りを奉納した後、「師崎音頭」などを唄いながら、約2時間半にわたって「かけ踊り」と「真向踊り」を踊り続けます。翌日、神様を羽豆神社へお送りします。



南知多町

うつつくじくさいれい

内福寺区祭礼



祭礼日

4月第1日曜日

祭礼場所

八幡社

歴

史

山車は万延元年（1860）に建造されたと推定されています。現在、祭礼は行っていますが、山車の巡行はしていません。山車の彫刻は、力神の銘から中野甚右衛門重富が携わり、地元大工の手により山車が製作されたことが推定されます。

内容・見どころ

昭和30年（1955）前後までは曳き廻されていたと言われていますが、山車が巡行していた頃の詳細は不明です。区には、蓮台の上でチャッパを叩く唐子と石橋唐子が残されており、かつては上山で上演されていたと言われています。



南知多町

つしまじんじゃさいれい

津島神社祭礼



祭礼日

7月中下旬の土曜日・日曜日

祭礼場所

津島神社

歴

史

明治7年（1874）に建造された船型の山車は、弁財船または御座船を模したと伝わり、元は中洲村の中洲神社の祭礼で曳かれていました。その後、明治14年に須佐村の半月に譲渡されました。半月では近隣の村まで山車を曳き廻し、一時期中断したものの、昭和47年（1972）頃まで津島神社の祭礼で曳き廻されていました。現在、祭礼は行っていますが、山車の巡行はしていません。

内容・見どころ

山車は「お舟」と呼ばれました。お舟の船囃子は上・下に段に分かれて演奏され、上の段は大太鼓と太鼓、下の段は笛、三味線、小太鼓だったといひます。



美浜町

ふっとまつり
布土祭
【例祭】

祭礼日 4月第1日曜日

祭礼場所 神明神社・津島神社

歴史

元は毎年9月17日に行われていた祭です。上村組（護王車）・平田組（天王車）の2輛の山車が昭和61年（1986）に、大池組（山王車）の1輛の山車が平成6年（1994）に、大池組の大太鼓が平成8年に町の有形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

平田、大池、上村の3地区からそれぞれ山車が出て、各地区を曳き廻した後、神明神社に3輛の山車が集められます。そこで、からくり人形の芝居と三番叟が奉納された後、津島神社前の広場まで山車を進めます。山車の曳き廻しや山車の彫り物、山王車の大太鼓が見どころです。



美浜町

こうわまつり
河和祭
【大祭】

祭礼日 4月第1日曜日

祭礼場所 天神社

歴史

以前は6月24日に行われていましたが、最近では4月の第1日曜日に行われています。河和中組の汐吹車が昭和61年（1986）に、河和北組の力神車が平成6年（1994）に町の有形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

北組と中組の山車2輛を地区内で曳き廻します。その後、天神社に奉納します。見どころは、山車の曳き廻しで、山車にはからくり人形が搭載されています。



美浜町

かみのまつり

上野間祭

【野間神社の神武天皇祭】



祭礼日

3月末か4月第1日曜日

祭礼場所

野間神社

歴

史

祭礼は江戸時代の元禄年間に始まったとされています。年1回の大祭で、明治時代以後この日が祭礼日となりました。昭和61年（1986）に、四嶋の山車、越智嶋の山車の2輦が町の有形民俗文化財に指定されました。

内容・見どころ

若衆によるお囃子や山車が出て糸からくり人形芝居が奉納されます。この芝居のほか、山車の曳き廻しや野間神社の急坂の昇り降りが見どころです。山車は2輦あり、からくり人形が搭載されています。



美浜町

おこなむちじんじゃ・はちまんしゃ・つしまじんじゃたいさい

大己貴神社・八幡社・津島神社大祭



祭礼日

3月最終の土曜日・日曜日、もしくは4月第1土曜日・日曜日

祭礼場所

大己貴神社・八幡社・津島神社

歴

史

龍神車は地元有志で平成16年（2004）に建造され、半田の下半田南組より台輪、乙川浅井山よりゴマを譲り受けて大改修を行い、現在の形になりました。また、南車は平成17年有志によって建造された後に、半田の組から台輪、武豊の組からゴマを譲り受けて大改修を行いました。両山車は、大幕の寄贈を受けるとともに、地元区民の寄付・努力により手直しと改良がなされ、現在の形となりました。

内容・見どころ

龍神車、南車の2輦の山車が、それぞれの地区内で曳き廻しを行い、祭礼2日目に山王橋で合流後、大己貴神社に奉納します。また、龍神車は祭礼1日目には八幡社に奉納し、南車は津島神社に奉納します。山車の曳き廻しと神社下での太鼓の競り合いが見どころで、神楽や巫女舞、お囃子が奉納されます。



じんむさい
神武祭

祭で使用する山車は昭和37年（1962）頃損失してしまいましたが、平成23年（2011）から地元有志の手で新しい山車の建造が行われ、現在に至っています。

祭 礼 日

4月第1土曜日・日曜日

祭礼場所

神明神社・富具神社

内容・見どころ

祭礼1日目は、山車を柿並区で曳き廻し、神明神社に奉納します。祭礼2日目は、若松区、一色区、細目区を曳き廻し、富具神社に奉納します。山車は1輦で、山車の曳き廻しが見どころです。

きたかたくさいれい
北方区祭礼

かつて北方では、獅子舞など盛んに行っていましたが、時代の流れとともに後継者が減り、下火となりました。その後、北方の勇み囃子を残し伝えるため、平成15年（2003）に北方保存会（現北神会）を発足させ、子供たちに笛、太太鼓、小太鼓を教えてきました。平成20年に区民一丸となって、手作りで山車（北神車）を完成させ、平成21年春の祭礼から、勇み囃子の披露とともに、山車の曳き廻しを行っています。

祭 礼 日

4月第1土曜日

祭礼場所

十二神社

内容・見どころ

山車を地区内で曳き廻し、十二神社に奉納します。山車の曳き廻しとともに、オリジナル曲も含め、多彩なお囃子を楽しめるのが、この祭の見どころです。山車は1輦あり、名鉄踏切を安全に渡るために小型に作られています。山車の装飾など、これから少しずつ充実を図っていきます。



美浜町

あきまつり
秋祭り

歴史

小野浦の秋祭りは、江戸時代中期から末期にかけての小野浦廻船の隆盛と小野浦村の繁栄を彷彿とさせる盛大なものでした。例年、旧暦8月15日に行われました。しかし、祭の主役とも言える若衆の不足と青年会の解散により、昭和32年（1957）、大名行列と船型山車の曳き廻しを最後に中止のやむなきに至っています。山車は「小野浦の船山車」として、平成2年（1990）に町の有形民俗文化財に指定されました。

祭礼日 3月初午の日

祭礼場所 八幡社

内容・見どころ

かつては、山車の曳き廻しや大名行列などが行われていました。明治時代の初め頃には、中央の川を境にして東西の組に分かれ、双方山車と太鼓のお囃子でにぎわったと伝えられています。



武豊町

おおあしちくさいれい
大足地区祭礼
【大足蛇車まつり】

歴史

この地域には「その昔、この辺りの海に親子連れの竜が住んでおり、娘竜は父母の命を拒んで人間との恋に落ち、人間の姿のまま父竜の呼んだ稲妻に打たれて死んだ」という悲恋伝説が残っており、その霊を慰めるため、村人が山車に竜頭を仕掛けて祭礼を行うようになったと言われています。山車は、昭和62年（1987）に町の有形民俗文化財に指定されました。

祭礼日 7月第3土曜日・日曜日

祭礼場所 豊石神社

内容・見どころ

「蛇車」と呼ばれる山車が1輛あり、山車の曳き廻しや手筒花火の奉納などが行われます。豊石神社の境内では約10種類の仕掛け花火が奉納されますが、その中の一つ「蛇ノ口花火」は、山車の上から竜の口になぞらえた手筒花火を左右に大きく振る姿が壮観です。



たけおじんじゃれいさい

武雄神社例祭

【長尾地区祭礼】



18世紀中頃には、既に山車が曳かれていたようであり、毎年4月に長尾地区の氏神である武雄神社に6輦の山車が奉納されます。6輦の山車は、昭和62年（1987）に町の有形民俗文化財に指定されました。



祭礼日

4月第2土曜日・日曜日

祭礼場所

武雄神社等

内容・見どころ

山車を武雄神社境内に曳き込み、からくり人形や子供三番叟、巫女舞などをお囃子とともに奉納します。長い坂道の参道では、先頭の塩まき役が盛大に塩をまき、拍子木の合図とともに砂煙をあげて山車が駆け上がります。6輦の山車が曳きそろえられるのは知多半島では最多であり、境内で繰り広げられる豪快な曳き込み・曳き出しが最大の見どころです。土曜日の前夜祭では、JR武豊駅に集まり一斉に提灯を灯す姿が壮観です。



ふきちくさいれい

富貴地区祭礼



武豊町南部の富貴地区では毎年春に各区内で山車が曳き廻され、それぞれの神社において健康祈願・五穀豊穡を願う神事が執り行われています。富貴区と富貴市場区が八幡社、市原区が縣社、東大高区が知里付神社となります。山車は各区に1輦ずつあり、昭和62年（1987）に町の有形民俗文化財に指定されました。



祭礼日

4月第1土曜日・日曜日

祭礼場所

八幡社・縣社・知里付神社

内容・見どころ

各区で山車の曳き廻しや、お囃子の演奏などが行われます。富貴区と市原区の山車には、からくり人形が搭載されており、神社での御祈祷の後、からくりの妙技が奉納されます。また、富貴市場区の山車には船型の上山が載っており、神前では船をせり上げ、4本の幟が立てられます。東大高区の知里付神社参道は桜並木で、開花時期があれば満開の桜の下での曳き廻しを見ることができます。

